

中国における都市観光プロモーションビデオの描写表現にみる

国際化戦略としての都市イメージ形成の枠組み

Framework of City Image as Internationalization Strategy of Chinese Cities in Tourism Promotional Videos

奥山研究室 20M50619 劉 関熙諾 (LIU, Guanxinuo)

1.序 中国では古来より、広大な国土の各地に多様な文化的アイデンティティをもった都市が形成されてきた。なかでも、改革開放を経て急速な発展と国際化を遂げ、世界の主要都市に比肩しうる大都市が多数存在する状況にある。こうした都市の行政機関が制作する観光プロモーションビデオ（以下、観光PV）は、インターネットを介して世界に発信され、人々の抱く都市のイメージを考える上での重要なメディアといえる。そこには、都市景観や文化活動の現代的あるいは歴史的な側面が一連の順序で描写されることで、多面的な都市イメージが表現されている。このようなメディアにおける中国の都市像は、これからの国際化を目指す現代都市の顕在化として捉えることができる。そこで本研究では、中国の主要都市の観光PV¹⁾を資料とし、描写内容とシーケンスを検討することで、急成長する都市に関するイメージ形成の枠組みの一端を明らかにすることを目的とする。

2.シーンの描写内容 資料とした観光PVとその発信媒体を図1に示す。観光PVは、1コマ数秒のショットで構成され、内容が連続するショットのまとまりをシー

ンと捉え映像を分節し、以降の分析単位とした(図2)。

2-1.描写内容の分類 各シーンには、図2の分析例のように、建造物や自然景観、人々のアクティビティといった複合的な内容が描かれる。そこでまず、シーンの描写内容を《空間》と《活動》に大別した(図3)。《空間》は、自然や街並みなど都市の空間的広がりを示す〈都市空間〉と、ランドマークや施設など都市に点在する建物を示す〈建造物〉から捉えた。《活動》は、観光客など都市の外部からの人物の参与のあり方に注目し、芸能やイベントなど観賞の対象となる〈文化〉、食やスポーツなど体験の対象となる〈レジャー〉に分類した。さらにこれらの描写内容について、都市の伝統や歴史との関連性について検討し、〔伝統〕〔現代〕として捉えた。

2-2.描写内容の類型 前節で検討した描写内容を資料単位で集計し、《空間》と《活動》それぞれの内容の比率を縦軸に、〔伝統〕〔現代〕の比率を横軸に、各資料をプロットしたものが図4である。その分布から、各資料の描写内容をUL、UC、BL、BCとして位置づけ、さらに《空間》と《活動》における〔伝統〕〔現代〕の

比率の組合せから伝統集中、伝統・現代、現代集中として分類した。右上から左下に位置づく全体的な傾向として、〈都市空間〉〈レジャー〉〔現代〕、〈建造物〉〈文化〉と〔伝統〕の対応関係を指摘できる。ULは〈都市空間〉と〈レジャー〉の比率が高いものであり、蘇州を除く全ての資料が現代集中であった。そのうち、哈爾濱と大連は特に〈都市空間〉の比率が高く、大連の放射状道路に沿った建物群のような、特徴的な都市景観が提示されている。蘇州、武漢、香港は、〈レジャー〉の比率が特に高く、武漢の郷土料理など現地で体験できるアクティビティに重点がおかれている。UCは〈都市空間〉と〈文化〉の比率が高いもので、青島を除く全ての資料では、《活動》で〔伝統〕の比率が高く、例えば杭州の伝統的な絹織物のように、地域独特の歴史文化が強調されている。一方青島は《活動》で〔現代〕の比率が高く、IT産業と港湾物流という産業の発展が強調される特異的な事例である。BLは《空間》《活動》とも平均値に近いものであり、該当する資料が最も多かった。そのうち深圳と廈門は、いずれも経済特区である沿岸部の大都市で、PVではそうした経済発展の著しい都市の全体像を示すのではなく、現代的な超高層ビルや公共施設が断片的に示される。BCは、〈建造物〉と〈文化〉の比率が高いもので、北京・西安という中国の代表的な古都が該当し、いずれも伝統集中で、天壇や碑林など著名な歴史的な建造物や篆刻や窗花などの伝統文化が提示される。

3.シーンの描写形式と構成 前章で捉えた描写内容がどのように表現されているかをカメラワークや映像全体のシーン構成の観点から検討する。

3-1.描写形式の分類 まず、描写内容のカメラワークや演出の違いについて描写形式として検討した。ここでは、描写内容そのものの有様を伝える表現か、描写内容の疑似体験を伝える表現かを重視し、前者を〔アイコン〕的、後者を〔体験〕的な描写形式と位置づけ、描写内容の各分類に対して検討した。《空間》はカメラワークに着目し、そのうち、〈都市空間〉は視点が俯瞰かアイレベルか、〈建造物〉は外観のみの描写か、内外や全体・部分を行き来する描写かで分類した。《活動》は演出に着目し、観光客の体験の描写の有無で分類した(図5)。

3-2.描写形式の類型 前節で捉えた描写形式を資料単位で集計し、《空間》と《活動》それぞれにおけるアイコン・体験の比率から、アイコン型、バランス型、体験型、対比型として捉え、描写内容の類型とあわせて図6に示した。アイコン型は、全て《空間》の割合が高く、描写内容がUC、ULであることから都市空間を俯瞰する描写に偏重したタイプといえる。バランス型は、《空間》の割合が高いものが多く、BLが最も多くみられた。これらは例えば南京における大報恩寺や広州における広州塔などの著名な建造物をアイコン的・体験的様々なカメラワークで描写するものである。一方で青島では《活動》の割合も比較的高く、運輸産業といった都市を代表する

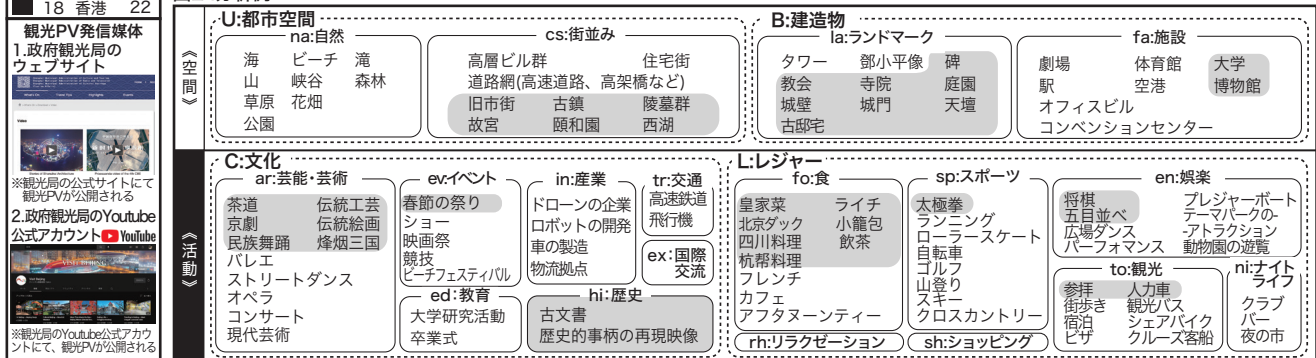


図1.資料概要

図3.描写内容の分類

凡例： (伝統) の内容を含む

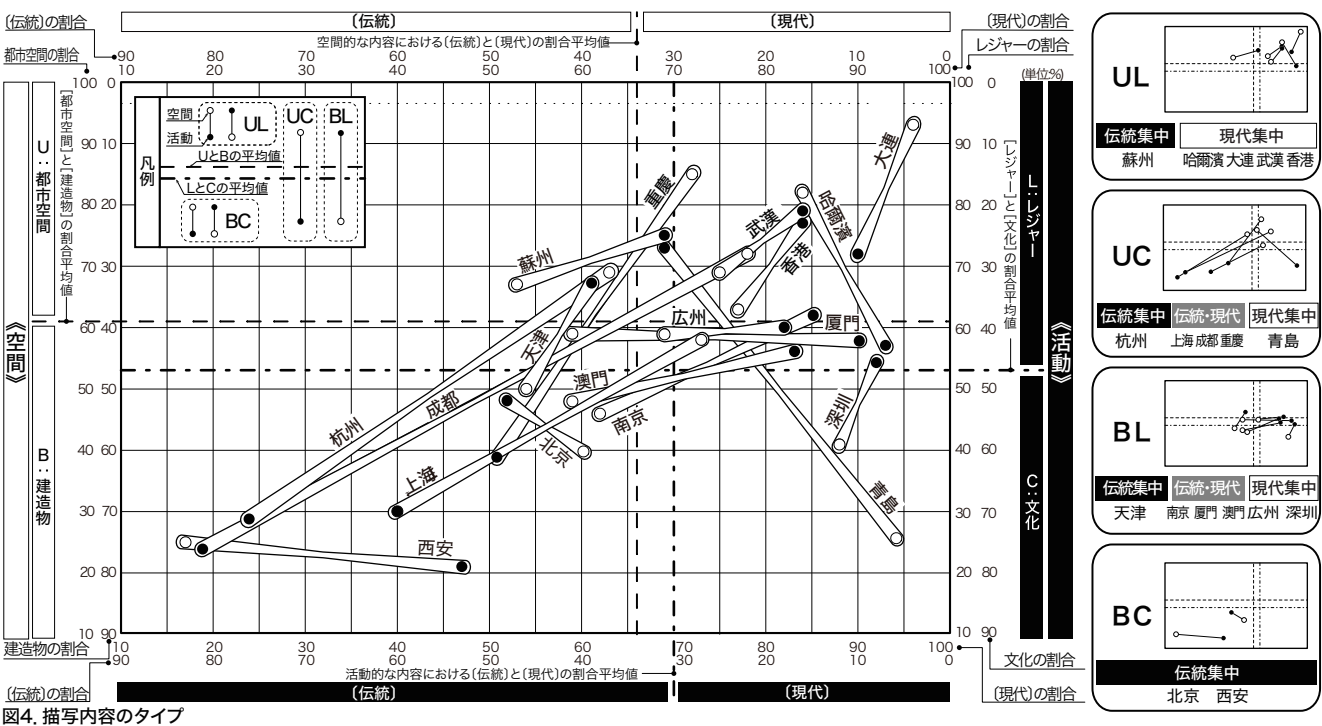


図4.描写内容のタイプ

産業活動がみられた。体験型は、描写内容が全て UL あるいは BL であることから〈レジャー〉の体験的な描写に偏重したタイプといえる。例えば香港の飲茶や天津のテーマパークのアトラクションを観光客が楽しむ様子が示されている。対比型は《空間》と《活動》で描写形式の比率が反転するものである。西安と杭州は《空間》が[体験]、《活動》が[アイコン]の比率が高く、描写内容は UC と BC であることから西安の唐代の歴史や杭州の漢方薬などの都市を代表する〈文化〉がアイコン的に示されるという共通点をもつ。

3-3. シーンの構成からみた分類 さらに、以上で検討したシーンが PV の一連の映像においてどのように構成されるのかを検討した。ここでは、各資料における始点と終点、および PV の中で繰返し示されるシーンを検討し、図7に示した。シーンの構成の形式として、始点と終点の描写内容から、いずれも《空間》となるもののうち〈都市空間〉のみの組合せを【A】、〈建造物〉を含むものを【B】、また《空間》《活動》からなるものを【C】と位置づけた。さらに【A】は描写形式の組合せから、始点と終点がいずれもアイレベルの【A-1】、俯瞰とアイレベルの組合せの【A-2】、いずれも俯瞰の【A-3】



図5. 描写形式の分類

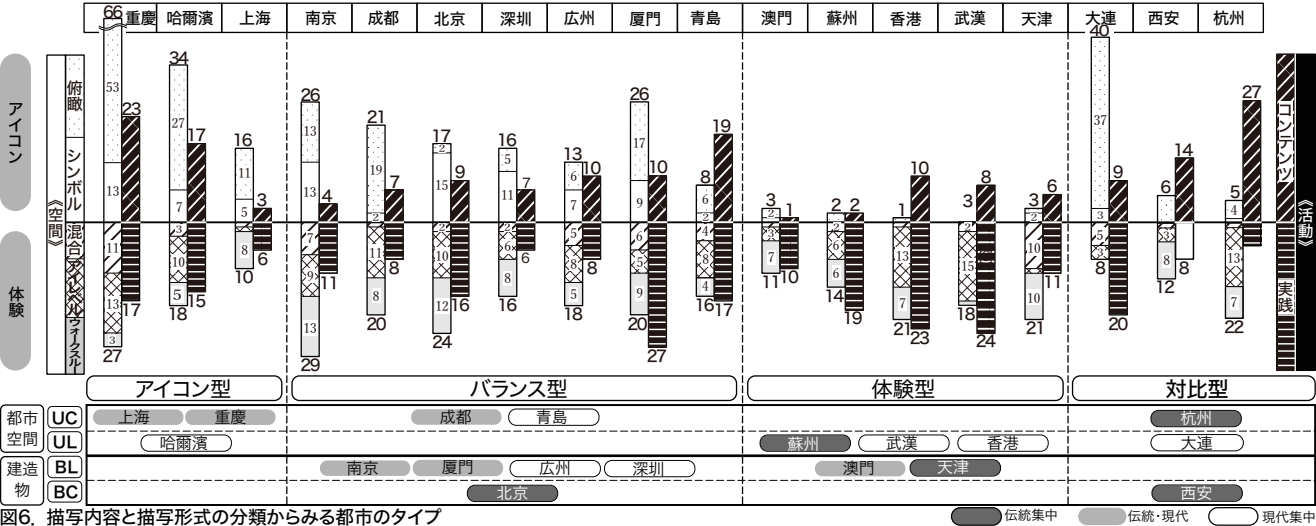


図6. 描写内容と描写形式の分類からみる都市のタイプ

に分類した。【A-3】が最も多く、特に成都、廈門、重慶は終点シーンで示される都市景観がPVの中でも繰返し登場し、俯瞰の描写による都市の全体像が都市を象徴するアイコンとして位置づけられているといえる。【C】では、いずれも《空間》から始まり、《活動》で終わる。これらは、都市の第一印象としては空間という実体的コンテンツが優先すると同時に、特徴をもつ活動をアピールするという傾向を指摘できる。また、武漢、南京、広州、成都、上海、西安は特定の空間の内容が繰返され、広州塔、上海テレビ塔や城壁などが都市のアイデンティティを担うものとして提示されている。

4. 資料の分類による都市のイメージ 以上で検討した描写内容とシーンの構成の組合せ、それらの地理的な関係を検討し、図8に示した。ここでは複数資料が該当した【A-3】・UC、【A-3】・BL、【C】・UL、【C】・BCについて、その特徴を考察する。【A-3】・UC、【A-3】・BLは始点と終点で都市の俯瞰景が示されるものである。【A-3】・UCに該当する成都と重慶は、いずれも四川盆地という内陸部の豊かな自然地形と現代的な都市景観が強調され、さらに三国志の舞台や少数民族の居住地域としてそれに関連する文化が併せて提示されており、類似性が高い。それ

に対して、【A-3】・BLは、全て沿岸部の都市が該当し、港湾からの俯瞰景が強調されているが、PVのなかではそうした都市景観だけでなく〈建造物〉や〈レジャー〉の描写が比較的多い。天津、廈門、広州は租界地としての履歴など、歴史的コンテクストにも共通点がみられるが、都市の発展のあり方により天津では歴史的な建物が、廈門、広州では開発された沿岸部の現代的な建物が映され、対照的である。また、【C】・ULの蘇州、香港は内容の繰返しが少なく、蘇州の水郷景観を巡る人力車や香港の飲茶など都市の文化的コンテクストに関連した観光体験が特徴的である。【C】・BCでは歴代の王朝の都であった西安と北京が該当し、いずれも世界遺産に登録された歴史的建造物や伝統文化に加え、オリンピック大会などの国際的イベントも提示され、世界的な観光都市としてのイメージが強調されている。【A-3】の半

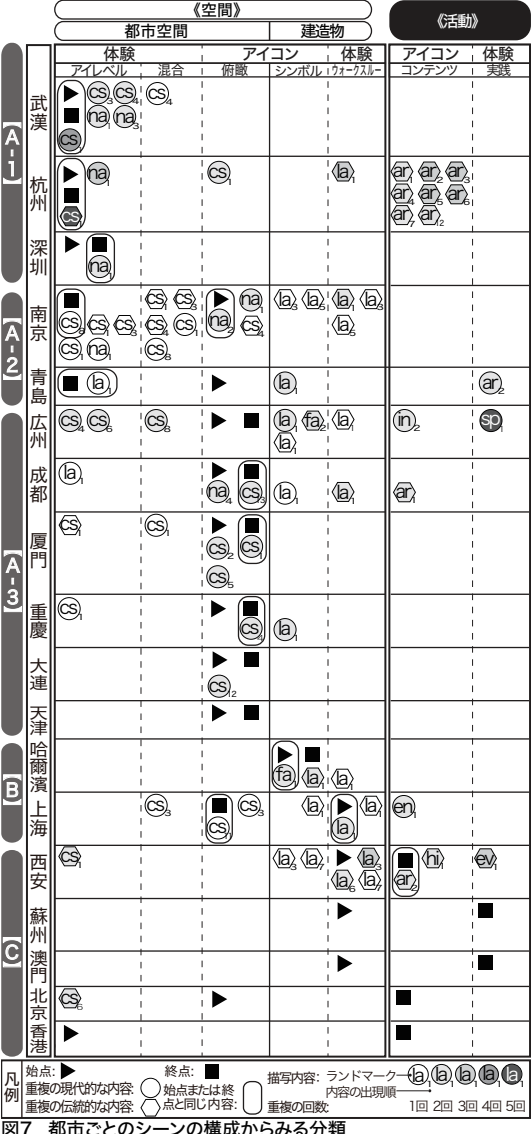


図7. 都市ごとのシーンの構成からみる分類

数が伝統・現代であるのに対し、【C】は多くが伝統であることから、歴史的な活動が多く映される都市でも、都市空間に重点がおかれる場合は現代的な街並みも併せて示される傾向にあるといえる。

5. 結 以上、中国の主要都市の観光PVを資料に、描写内容、描写形式、シーンの構成を検討することで、都市のイメージ形成の枠組みを考察した。その結果、都市の地理的な特性を反映した俯瞰景を冒頭と終わりのシーンで映して強調するもの、世界的観光地として《空間》と《活動》の双方を強調するものという描写内容の特性とシーンの構成からみた描写表現の特徴的なあり方を見出した。これらは、地理的・文化的コンテクストを根拠とした中国都市の国際戦略としての人々の持つ都市イメージに大きな影響を与えていると考えられる。

註1) ここでは、中国の都市の中でも、人口と経済の規模が大きく、国際的な知名度の高い18都市を対象として各都市の市政府の公式ホームページもしくは動画共有サイトの公式アカウントにおいて公開されている観光PVを資料としている。

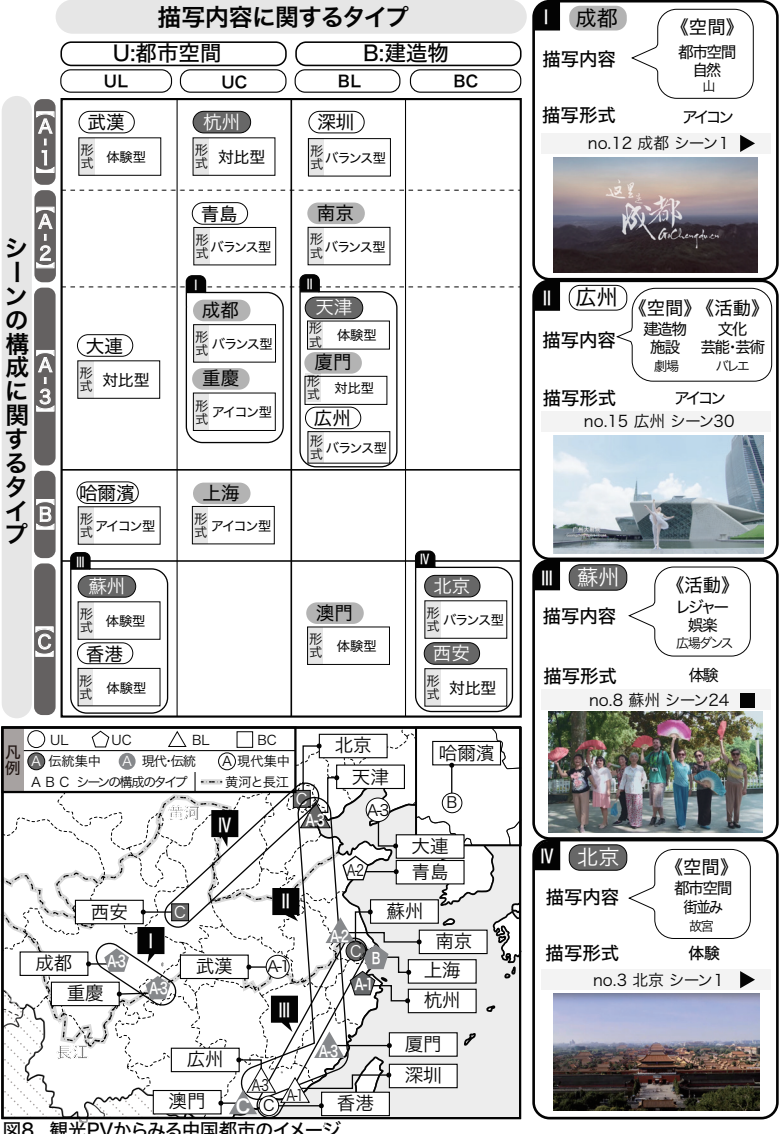


図8. 観光PVからみる中国都市のイメージ